

指定研究計画書

- 1 研究主題名：積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～主体的・対話的な深い学び合いのある授業づくりを通して～

- 2 研究主題設定の理由

本市の英語教育特例校授業計画の実施以来、ALTとのTT形式の取り組みを実施している。歌やリズム遊び、ゲーム、スキット、チャンツなどを取り入れて身近な英語を聞いたり話したり表現したりという活動の中で、児童は楽しみながら英語に触れ、慣れ、親しんでいる。

また、国際理解教育とつなげた学習に取り組むことで、異文化に興味・関心が高まってきている。児童からは、「英語は楽しい」「もっと英語を学びたい」「もっと話せるようになりたい」という声が聞かれた。

そこで、児童のモチベーションを高めるため、昨年度から引き続き今年度も、英語科においては、テーマを「積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成～主体的・対話的な深い学びのある授業づくりを通して～」とした。

英語を使って積極的にコミュニケーションを取る活動を進めるため、TPR (Total Physical Response ジェスチャー・視線など) を使った英語のコミュニケーションの方法を取り入れた。この活動は、英語で伝えることや英語を覚えることへの抵抗を少なくすることができる。また、楽しく英語に親しみ主体的・対話的な深い学びのある授業づくりができる。そうすることで、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成につながると考えた。

さらに、外国への興味・関心を高めるため、国際理解教育とからめた活動を行うことで、本年度の学習の終わりには、「もっと英語を話したい」「もっと他の国の人と対話してみたい」等、主体的に対話したいという児童が増えると考え、本テーマを設定した。

- 3 学年・領域

教科として全学年で実施する。

- (1) 低学年（英語に触れる・慣れる）英語のリズムに慣れる。体を動かして、伝えたい気持ちを動作として取り入れる。
- (2) 中学年（英語に慣れる・親しむ）本のアルファベットからフォニックスの導入とTPRを取り入れた場面設定により、英語の聞き取り、簡単な意思表示ができる。
- (3) 高学年（英語に親しむ・使う）フォニックスに慣れ親しみ、簡単な英語を読み、書きとる、特定の場面における伝え合うことができる。（自己紹介・買い物・道案内等）

4 年間研究計画

- (1) 毎週英語のミーティングの時間を設け、事前に英語の授業の流れを担当とALTで確認することで連携して授業が行えるようにする。
- (2) 教材・教具の開発と工夫（ICTの活用、学年ごとの掲示カード、歌・ゲームの活用等）
- (3) 学習環境の設備（イングリッシュルーム、校舎内）
- (4) 英語活動の日常化を図るための工夫（放送委員における英語アナウンス、外国の行事体験、音楽朝会等での英語ソングの合唱）
- (5) FTの配置による専門的な知識や工夫を凝らした授業展開を図る。

5 校長所見

本校の英語教育は、ALTの二人配置体制と学年・学級担任との連携で英語の教育課程の充実が図られております。低学年から英語に触れ、親しむ機会・環境があり発達段階に応じた指導法の工夫と改善で教育効果も高く、英語の授業を楽しみにする様子がみられます。

さらに今年度は、FTの配置により、6学年児童の中学英語へのスムーズな接続も期待されます。

ALT・FTは、ともに指導熱心で、常に英語担当教諭や担当学年教諭と指導内容の確認や、指導方法について打ち合わせを行い、共通理解を図りながら、スムーズに授業が行われています。また、教材作りも積極的で、年間行事に合わせた工夫も見られ、諸外国の文化に触れる等、国際理解教育の一端も担っております。

児童の実態として、これまでの授業実践から、発達段階に応じて、語彙の獲得や基本的な挨拶、簡単な日常会話を身に付けることができしており、英語への興味・関心から「話したい」という思いや意欲は高いと言えます。しかし、「恥ずかしい」「何と云えばよいか分からない」等の気持ちから、コミュニケーション力や積極性に課題があり、改善が求められております。

そこで、今年度も昨年度に引き続き、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成～主体的・対話的な深い学び合いのある授業づくりを通して～」を研究主題とし、問いにこだわり、思考・判断・表現する場を意図的・計画的に組み込むことで、「話したくなる・聞きたくなる・書きたくなる」授業づくりにより、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を図っていきます。

さらに、朝や放課後の委員会活動・運動会や学習発表会等の学校行事では、日本語だけでなく英語での放送を行う等、日常の生活に生かす工夫も実践も継続して推進していきたいと考えております。